

# 研修参加報告書

令和5年9月8日

会派名 江南クラブ  
会派代表者 稲山 明敏

参加者：牧野 行洋

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和5年8月23日（水）～25日（金）
研修時間	8月23日（水）14:00～16:30 8月24日（木）10:00～17:00 8月25日（金）10:00～14:30
研修場所	静岡県袋井市役所、FUSE、静岡県浜松市役所、 次世代自動車センター浜松、静岡県庁、静岡県地震防災センター
研修内容	令和5年度 慶應義塾全国議員連盟 視察研修会 8月23日（水） 14:00～16:30 人口減少対策等 静岡県袋井市役所 8月24日（木） 10:00～11:30 浜松市・地域金融機関のスタートアップ支援 FUSE 13:00～14:30 行政区の再編 静岡県浜松市役所 15:00～17:30 官民連携による産業支援 次世代自動車センター浜松 8月25日（金） 10:00～12:00 デジタル技術の活用 静岡県庁 13:00～14:30 自然災害に対する防災啓発施設 静岡県地震防災センター

# 研修参加報告書

## ■目的

地方議員1年目として、人口減少下における地域活性化と行政の取組を学ぶ

令和5年8月23日（水）研修1日目

今回は北海道から兵庫県より18名の市長、県市町村議会議員が参加しました。

14:00～16:30 静岡県袋井市役所

袋井市は、人口88,296人、東海道五十三次の宿場の数では江戸から数えても京から数えても27番目の中間地であり、現在では「どまんなか」のコピーが用いられています。また、静岡県で子育て世代を中心に人口が増えており、「子育てへの手厚い支援の市」として有名です。

今回は、子育て支援を中心に話を聞いたが、二人の市長を中心に、10年単位で子育てを市政の中心に添え、実際に成果が出ている状況とそのやり方がとても勉強になりました。

令和5年8月24日（木）研修2日目

10:00～11:30 FUSE（浜松市）

浜松いわた信用金庫が維持管理する浜松駅近くにあるFUSEは、スタートアップ支援用のオフィス兼試作品製造場兼コミュニティで、コロナ禍の中で立ち上げられ、その設計には、シリコンバレーでVCをされていた方の指導が入っているので、設備はどれをとってもとても刺激的です。ここで、信金の方が直接運営に携わり、浜松の大企業・大学・スタートアップをどう呼び込み、企業単体だけでなく、どうやって複数組織のアイデアの出し合いなどに結びつけているかを聞きました。浜松市の「やらまいか」精神が良く表現されており、目先の利益ではなく、中長期的な地域の発展のために「コトを起こす」コミュニティを目指して、運営されている姿勢が印象深いです。

13:00～14:30 静岡県浜松市役所

浜松市は、平成17年に12市町村が合併し、人口791,946人、面積は高山市の次に大きく、伊豆半島がすっぽり入る程です。鰻、みかん、海産物だけでなく、スズキ、ヤマハといった大企業、航空自衛隊基地、博物館・動植物園、城郭、温泉も備えた、中核都市です。また、地区会への参加率が94.1%ととても高いのも特徴です。

今回は、ここで行政区を現状の7から3に減らす話を伺いました。行政の効率化のために発案されたのですが、その過程でどう市民の方の合意を得られるかに注力したのが勉強になります。また、天竜区は浜松駅から車で2時間程掛かるのですが、その距離からくる「疎外感」を薄めるために、3人いる副市長の内の1人を常駐させている話は、印象に残っています。

15:00-17:00 次世代自動車センター浜松 センター長 望月 英二 氏

商工会議所と地元大企業の肝煎りで、試作製造、カーボンニュートラル、デジタル（サイバーセキュリティ含む）、サプライチェーンの維持における中小企業の支援を行う。EV自動車の普及が世界的潮流になる中で、中小企業が生き残るために必要な支援を行うが、その手法が、他社製品を分解し、それをセンター内の展示室に展示し、その各部品を自社でも作れないかの試作支援といった従来どおりのやり方であるのが学びになりました。また、愛知県や関東の企業も参加していたり、中小企業のオーナー社長と話し合い、信頼されて動いて頂くためには、こちらも同じような立場にある必要があること、潰れかけの中小企業は余裕がなさすぎて支援を受けられないこと、EV普及の技術的難しさなど、現場で技術を知っている方だけがわかるリアルの話も多く聞けました。

令和5年8月25日（金）研修3日目

10:00~11:30 静岡県庁

静岡県のデジタル政策について説明を受ける。静岡県は、（本来、国主導で進めるべき）県のほぼ全域を「3次元点群データ」でスキャンしたデータを保存しており、誰でも使えるオープンデータとして公開しています。3Dで丸ごと再現された「バーチャル静岡」は多くの可能性を秘めており、災害対策やインフラ工事の他、あらゆる分野での利活用が進んでいます。また、下田市を完全デジタル化してVRで街を散策できるようにしています。このデータを使用して、例えば、熱海の土石流の前後の山の状態を比較することで違法性を確認したり、災害時の被害のシミュレーション、下水道工事における水道管の正確な位置の確認、更に自動運転のレベルを上げることを目指しています。

今後の少子高齢化と労働力減少において、インフラメンテナンスや災害対策として、「3次元点群データ」がいかに有効かを目の当たりにできました。

13:00-14:30 静岡県地震防災センター

静岡県は、南海トラフ地震、東南海地震など広域大地震発生時に震災が県全域に発生しやすいため、その対策は「静岡方式」として、常に最新で現実的な形にされています。例えば、各市町ごとに最適な形の防災対策、避難塔や避難山の整備など、その結果、震災発生時の予想死者数を当初の2割まで下げることができました。

このセンターでは、それらの情報の提示と、揺れ体験装置、地震発生の仕組み、日頃からの準備、避難生活の様子などがわかりやすく提示されています。

また、静岡県は雨が多いので、洪水対策にも注力しています。

それらを踏まえて、災害時の心構えや事前準備は、勉強になりました。

#### ■所感

静岡県の西と中央を移動する研修で、移動が多い分、手間がかかりました。同大学卒の集まりなので、初対面にも関わらず、共通の話題もあり、とても和やかに過ごせました。

各場所で全く別の分野について学んだので、特に今後に活かしたいと思うものについて記載します。

袋井市の10年以上かけて「子育てするなら袋井市」という評判を静岡県で勝ち取った全市挙げての総合的な取組は、江南市にも可能な部分は取り入れていきたいと考えます。

浜松市の「やрмаいか」の精神を市当局、地元信用金庫、自動車センターで感じ取り、江南市でも、できる範囲でそういった志を持つ方々を結び付けられないかと思ひます。静岡県が取り組む「バーチャル静岡」は、江南市だけでは取り組めないが、水道管工事や災害時における活用方法などは、とても勉強になりました。